

語しらすと申し候へども、略下
〔瓦礫雜考〕下能書筆をえらばず

こは歐陽詢が傳の虞世南が語に、吾聞詢不擇紙筆皆得如志といへるより起りて、唐人も專いふこと、見えて、消暑筆談に、余無字學、兼不好書云々、或謂善書者不擇筆紙、また丹鉛總錄に、李白が浣沙詩を評して、張愈光云、李可謂能書不擇筆矣などあり、

〔承久兵亂記〕下きやうがたのつはものちうりくの事

山しろのかみごとうのはうぐはんいけどらされてきらる、ごとうをばしそくさゑもんとつな申うけてきりてけり、た人にきらせて、首を申うけて、けうやうせよかし、これやほうげんに、ためよしを、よしともきられたりしにをそれず、それはじやうこのことなり、せんぎなかりき、それをこそまつ代までのそしりなるに、二のまひしたるもとつなかなと、萬人つまはじきをぞしたりける、

〔徒然草〕上唐橋中將といふ人の子に行雅僧都とて、教相の人の師する僧ありけり、氣のあがる病ありて、略中 目眉額なども腫れまどひて、うちおほひければ、物もみえず、二の舞のおもてのやうに見えけるが、略下

〔嬉遊笑覽〕附錄垣下座エシタノザとは、舞樂等の時、舞人樂人など、著座する所なり、此外、公事の時もあることなり、地下の座にて、饗などにつく所なり、此處にて舞などある時は、堂上へはみえず、此故に俗に晴たぬことを、垣下舞といひけるにや、後世の俗談に、椽の下の舞といふは、垣下の舞をあやまりたるなるべしと、或人はいへり、

〔下學集〕下隱藝見軍作矢ミテイクサハグケラ子春秋云、臨難兵、臨渴掘井此類也、略下
〔書言字考節用集〕八辭見軍作矢ミテイクサハグケラ本朝俗語、蓋据臨難、兵之語